

RSウイルス

Q&A

監修：新潟大学大学院 医歯学総合研究科
国際保健学分野教授
齋藤 玲子 先生



もくじ

- Q1 RSウイルスとは？
- Q2 主な症状は？
- Q3 流行時期は？
- Q4 潜伏期間は？
- Q5 感染経路は？
- Q6 検査方法は？
- Q7 どのような治療方法がありますか？
- Q8 RSウイルス感染症に感染しないためには？
- Q9 学校や職場はいつから行けますか？



Q₁ RS ウイルスとは？

A₁ RS ウイルスはかぜの原因ウイルスの一つであり、赤ちゃんから高齢者までかかり、最初により患する感染症とされています。

特に乳幼児に多く、生後 1 歳までに半数以上が、2 歳までにほぼ 100% の児が RS ウイルスに少なくとも 1 度は感染するとされています。

また、1 度かかっても免疫がでにくいいため何度もかかります。繰り返し感染するうちに症状は軽くなることが多いと言われていますが、高齢者では症状が重くなることもあります。

Q₂ 主な症状は？

A₂ 発熱、鼻汁、咳などの一般的なかぜの症状が数日続き、多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は、細気管支炎、肺炎などを起こします。喘息のようなゼイゼイとした咳が特徴ですが、生後6ヶ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには重症化の可能性が高まります。

また、高齢者では慢性閉塞性肺疾患（COPD）、喘息や慢性心不全の悪化、また肺炎の合併も報告されています。

Q₃ 流行時期は？

A₃ RS ウイルス感染症は、近年は夏から増加傾向となり秋にピークがみられていました。一方、2021 年以降は春から初夏に継続した増加がみられ、夏にピークがみられています。

Q₄ 潜伏期間は？

A₄ RS ウイルス感染症の潜伏期間（感染～発症までの期間）は、2～8日、一般的には4～6日間とされています。

Q₅ 感染経路は？

A₅ 感染経路は2種類あり、主に接触感染と飛沫感染です。

接触感染は、感染者の鼻汁、手などを介して、他の人がふれることによって起きます。また、家庭内では、赤ちゃんや小さいお子様のお世話などでの濃厚接触も感染源となることがあります。

飛沫感染は、感染者のくしゃみや咳から飛んだ飛沫を口や鼻から吸い込んだり、目などの粘膜から入ることによって感染するものです。

Q₆ 検査方法は？

A₆ RS ウイルスの診断は、その場で検査し、すぐに結果を得ることが可能です。

検査方法は、RS ウイルスの疑いがある人の鼻の粘膜から検体を採取し、迅速抗原検査キットで検査します。検査結果は5～10分ほどでわかります。この検査は、外来受診の場合、1歳未満、予防薬のパリビズマブ製剤の適用となる乳児が保険診療の対象となります。

Q₇ どのような治療方法がありますか？

A₇ RS ウイルス感染症は主に症状を和らげる治療が行われます。

安静にして部屋の湿度を保ち、水分補給を心がけましょう。

水分が飲めない、呼吸困難等がある場合は、入院して輸液の投与、酸素吸入等を行うことがあります。



Q₈ RS ウイルス感染症に 感染しないためには？

A₈ RS ウイルスは、家庭内でうつりやすいといわれており、手指や物品を介して感染するので、手洗いや物品（特に子どもがよく触れるおもちゃなど）、身の回りの消毒が基本的な予防方法です。

- ・ 鼻汁、咳などの症状がある場合はマスクの着用
- ・ 石けんでの手洗い・アルコール消毒
- ・ 子どもが日常的に触れるおもちゃなどの消毒

また、RS ウイルス感染症には予防のお薬や、最近になって高齢者向けのワクチンが出来ましたので、かかりつけのお医者さんに相談しましょう。



Q₉ 学校や職場はいつから行けますか？

A₉ 熱や咳などの症状がおさまり、全身状態が良くなれば登校（園）可能です。

成人の通勤、通学に関して特に法令上の規定はありませんが、回復するまで控えることが望ましいでしょう。





2024 年 11 月作成
QR2404001
(1007148) HK